

北陸建工グループ、全製造拠点の使用電力を再エネ由来に

2026/6/5 19:43 | 日本経済新聞 電子版



オフサイトPPA方式で屋根上に設置した太陽光発電で電力を供給する

鋼材加工の北陸建工グループ（富山県滑川市）を傘下に持つ建工ホールディングス（同）は、グループの全製造拠点で使用する電力の100%を再生可能エネルギー由来に切り替えたと発表した。

グループ5社のうち、製造部門であるビル用鉄骨・鉄塔製造、鋼板加工、トンネル工事機材製造の3社の生産拠点を対象にした。3社の工場で使用する年間電力量5453メガワット時を4月1日から再エネ由来に切り替えた。約80%を滑川市内の水力発電所で、約20%をグループの物流拠点「北陸BASE」の屋根上に設けた太陽光発電で賄う。年間の二酸化炭素の排出量を2480トン削減できる。

北陸BASEは24年に完成した。発電所から離れた需要家に電気を送る「オフサイトPPA（電力購入契約）」を[北陸電力](#)と契約し電力を調達している。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.